

令和 7 年度

「県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会」

参加者アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和7年度 県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会 アンケート結果

日時 令和7年7月24日（木）

13:00～16:40

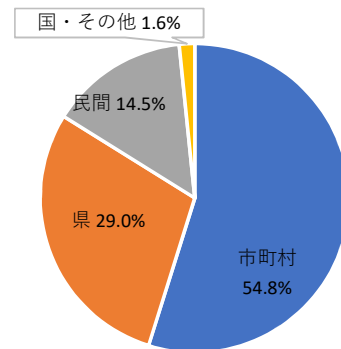
会場 笠懸野文化ホール

○研修参加者 177 人
○回答者 99 人
○回答率 55.9 %

Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	48	48.5%
県	36	36.4%
民間	14	14.1%
国・その他	1	1.0%
合計	99	

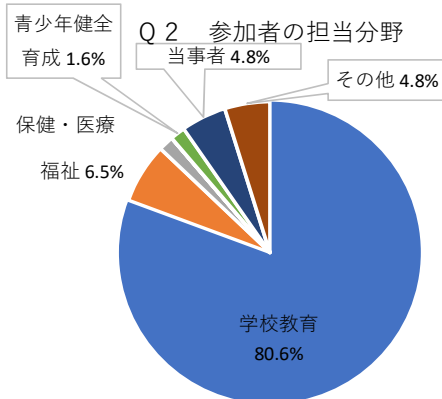
Q1 参加者の所属



Q2 回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	81	81.8%
福祉	4	4.0%
保健・医療	3	3.0%
雇用	1	1.0%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	6	6.1%
当事者	2	2.0%
その他	2	2.0%
合計	99	

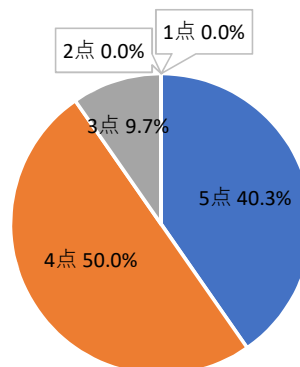
Q2 参加者の担当分野



Q3 - (1) 研修会の満足度

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	42	42.4%
	4点	45	45.5%
	3点	9	9.1%
	2点	3	3.0%
	1点	0	0.0%
合計		99	

Q3 (1) 研修会の満足度



Q 3 (2)

【基調講演】 「思春期における自己肯定感を育む支援の必要性について」

講師 共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授 上原篤彦氏

臨床発達心理士・公認心理士 共愛学園こども園 教育相談・発達支援アドバイザー

<感想> 自由記述

1	自己肯定感を高める具体的な方法を実践してみたいと思いました。すべての物事に感謝の気持ちを持つことが自己肯定感を高めることにつながるというのは、なるほどと納得しました。
2	自己肯定感を育むことがとても大事であることを改めて学ぶ機会となった。自身の日頃の実践を振り返ることのできる良い時間となり、確認ができたことがありがたかった。
3	成功体験の根っこになるものは、本人の価値観や興味関心の中にあると思います。大人がそれを与えようとするばかりでなく、本人が自分で探索していく意欲が育っているといいと考えます。探索し、発見する喜びを味わえるような体験が幼少期から沢山なされているといいと思います。 そして、思春期においてもその行動を他者から肯定される事で、さらに自己肯定感は増すのではないかと考えます。
4	一度つまづいてしまうと、なかなか挽回が難しい世の中です。自分を肯定して、自分を好きになることが大きな力になると思います。
5	これまでの学校教育のやり方では、頑張ってもできない子ども達がいるということを、もっと現場で周知する必要があると思いました。
6	自己肯定感を育む具体的な方法も教えていただきました。地道に、繰り返し、長く実践する必要を感じました。
7	もう少しお時間があるとさらによかったです。
8	不登校生徒にとって自己肯定感が大切であることが再認識できた。また、自己肯定感を育む具体的な声のかけ方を教えていただき勉強になった。
9	前回の研修会と関連付けた内容がわかりやすかったです。そのあとの研修会の理解を助けてられるものでした。
10	自分を好きになり、悪い所も良い所も受け入れられる様になる。
11	「幸せな人生の土台は自己肯定感」という言葉が心に残りました。また、苦手なことがあっても、自分は自分。そんな自分を自分が認めてあげられるような声掛けを心がけようと思いました。
12	短い時間でお話をまとめてくださって集中して聞かせていただきました。大変参考になりました。
13	自己肯定感を育む大切な10のこと、自己肯定感を高める方法を知ることができ、とても良かったです。
14	自己肯定感を高める具体的な10項目が印象残る話であった。
15	上原先生の実体験等もう少し時間をさいて話を聞きたいと思いました。
16	昨年に続いて、上原先生のお優しい口調ながら熱い講演にとても刺激を受けました。教育支援センターに勤務しており、生徒たちの安心できる居場所を心がけています。”自己肯定感を育む大切な10のこと”が、まさに自分の漠然とした姿勢を言葉にしていただけたようで、どこかに書いていつも見返したいと思います。
17	自己肯定感の低さがひきこもり傾向につながることも、また、そのような子供は敏感であり、そういった子供への具体的に関わり方を知ることができた。
18	自己肯定感を高めることの重要性を理解できた。わかりやすい説明で、職場で共有したいと思った。
19	特に発達障害のある子どもたちは、自己肯定感が低いことが分かった。自己肯定感を高めるために、学校としてできることに取り組んでいきたいと思った。

20	集中して拝聴できる時間配分でよかった。次のテーマにつながる題で、興味深く聞くことができた。例がわかりやすかった。
21	研修の方向性を示していただき、ありがたかったです。
22	具体的でとてもわかりやすかったです。
23	抽象的過ぎて内容が把握できなかったのが残念です。
24	上原先生のお話はとてもわかりやすく、また共講のサイトなど、こちらが学びたい時に利用できるサイトなども紹介していただけたので、参考にしていきたいと思います。
25	自己肯定感を育むこととアタッチメント（愛着）の課題は密接な関係があると思います。その点からの支援について、もう少し触れて欲しかったです。
26	上原先生はいつも通りの優しい話し方で、内容もそうですが、聴いていて心が穏やかになります。
27	幸せな人生の土台は自己肯定感。本当にそうだなあと感じました。育むために大切な10のこと、全てに感謝、自分自身が何よりの勉強になりました。まずは自分が実践して、周りに広げて行きたいと思います。
28	自己肯定感の低さから外に出るのが怖くなってしまうという繋がりがよく分かりました。周りの支援の仕方が大切だと感じました。
29	自己肯定感が持てるようになった先に学習や進路選択や人生充実があるのだと、改めて意識できました。人から共感される経験は、その子にとってその場しのぎの甘やかしではなく、先に進むために誰にも必要なステップだと実感しました。
30	勉強になりました。
31	学んだこと。自己肯定感の育み方は、共感すること。いいところも悪いところも受け入れられて育つ、ということ。
32	自己肯定感を高めることの重要性を再認識し、そのための支援について考える機会となりました。
33	支援の必要性は十分に伝わったが、具体的にどのように育むかなどの支援方法をもう少し伝えて方がよいと思った。
34	現在、自分が担任している支援が必要な生徒を想像しながらお話を聞いていました。不登校の生徒の心のうちを少しでも知ることができたと感じ、今後の接し方に生かしたいと思いました。
35	話の内容が抽象的すぎていたので、もっと具体的な取り組み事例等が聞ければと思いました。
36	「幸せな人生の土台は自己肯定感」がたいへん心に残りました。
37	1時間あると良い。
38	自己肯定感について 具体的に教えて頂き 対応方法が増えました。 もう少し 詳しくお話を伺いたかったです。
39	自信を無くしてしまう主要な3つの原因の部分が大変分かりやすかったです。本当は小さな失敗が、大きな失敗となってしまうということの構造がイメージできました。じわじわと自己肯定感が高められるような手立てを考えていきたいです。
40	自己肯定感を育む重要性を再確認できました。また、ありがとうと感謝の気持ちを持つことが、相手の自己肯定感を上げ、自分にも良い影響が返ってくるという相乗効果に納得しました。
41	自己肯定感を育む必要性がわかった。
42	興味深いお話だったので、もう少し聞けるとよかったです。

43	「自己肯定感」についてはよくわかりますが、「育む支援」のあり方については、内容がやや漠然としていたように感じました。書くことの困難さがある児童への支援として、同学年2クラスに対して先生が授業を実施され、他の児童たちが「どのようにして」キーボード入力を「自然なこと」として受け入れるに至ったのか、そこが知りたかったと思いました。特性があり、学習に困難さを感じ、自己肯定感が低い児童・生徒の支援には、周囲の児童・生徒の理解と協力が不可欠です。「合理的配慮」を小学生たちが「ずるい」「自分も」とならないような学習のあり方とするためにどのように導かれたのか、という点に関心を持ったからです。
44	子供が自分の存在を肯定して、自分が好きと言えるように、支援者が受け入れることが大切だと改めて思いました。
45	得意な事、苦手な事について、私も苦手な事の方が沢山書けました（泣）
46	自己肯定感が回復のキーポイントであることがよく分かった。
47	価値観の多様化した現代、一つの価値観で人を判断することはたいへん危険であることは自明です。しかし、かと言ってどの子どもにも自己肯定感を育むこともまた難しいことです。子ども自身が自ら達成感を感じられるような接し方について考えさせられました。
48	自己肯定感を育む為にどう対応したらいいか、具体的に知ることができて良かったです。内容も分かりやすく、大変勉強になりました。
49	お名前だけは以前から存じ上げていた上原先生のお話を聞けて、感激です。
50	難しい年頃に加え、対応が難しい方への支援についてわかりやすく解説頂き、大変参考になりました。
51	研修の趣旨が明確で分かりやすかった
52	自己肯定感を育むための具体的な手立てや関わり方がよく分かりました。
53	自己肯定感が低下してしまう過程と高めるための手立てを改めて確認することができました。
54	講演をお聞きし、「今のあなたでいいんだよ」という共感的な姿勢を忘れずにいたいと思った。不登校の児童を目の前にすると、つい欲張って対応してしまうため。
55	昨年度の情報や一般公開の情報を教えていただき良かったです。
56	とても興味深いお話でした。30分では短すぎました。
57	今回の研修会の方向性についてお話しただけだ。
58	参考になりました。今後、生徒への声掛け等に活かしていきたいと思います。
59	自己肯定感について改めて考えることができた。

Q 3 (3)

【高校現場の報告】 「多様な学びの環境で自己肯定感・有用感を育む生徒たち」

進行役：県立伊勢崎興陽高等学校 校長 渡部健一郎氏

発言者：県立伊勢崎工業高等学校全日制 教諭 平井宏憲氏

県立前橋清陵高等学校定時制昼間部 教諭 新井悠子氏

県立太田フレックス高等学校定時制Ⅰ・Ⅱ部 教諭 木部誠氏

県立榛名高等学校 養護教諭 阿部由利氏

<感想> 自由記述

1	太田フレックス高校の実態を具体的に話していただけて有難かったです。ミスマッチでの進路変更が少なくなるように、進路指導に活かしていきたいと思います。
2	個に対するアプローチや、「認めてもらえる」という状況が、子どもにとっていかに重要であるかを理解しました。それと同時に、それができる学校とできない学校が存在することも理解しました。
3	先生方のアプローチの仕方によって、子どもたちの成長に繋がっていくことが理解できた。人が育つためには、意図的に考えてアプローチをすることの大切さを感じた。
4	各校それぞれに子どもたちの学びの充実と自立の促進に向け従来のスタイルにとらわれず、様々な工夫を凝らしていらっしゃる事がよく分かり、非常に参考になりました。
5	高校にも、多様な学びの場・環境がある事が解りました。人が生きていくには、環境を選ぶ力だけでなく、時間(軸)をコントロールできる力も必要だと思っています。現在の学校システムでは難しいかもしれませんが、義務教育時代から、もう一度学ぶために学年残留を選ぶこと、更なる学びのために飛び級すること、それぞれが自分のレベルにあった学びのスピードを選び、自分の学びを自分でコントロールしながら前に進む力を身につけられる環境があったら良いと思います。
6	タイプの違う4校の実際の様子をうかがうことができて良かった。できれば、うまく行かなかった事例についても、紹介していただけると有難い。
7	今までの自分をやり直したい、変わりたいと思う子にとって、環境の変わる高校はいいチャンスだと思います。周りの支援される方々のいろいろなやり方を知ることができました。
8	各校の取り組みが具体的に分かりました。
9	学校の特徴とマッチすれば、本来持っているその子の力が発揮できることを改めて感じました。
10	各学校の様子が分かり、勉強になりました。
11	高校も生徒に寄り添った様々な対応を行なっていることがわかった。実際に自分で見てみる事が大切だと感じた。
12	各学校の事例が参考になりました。先生方が日頃生徒たちと真剣に、真摯に向き合っていることがとても伝わってきました。
13	学びの場所は学校だけでは無いと安心感を持たせることは大事。
14	現場の高校の先生方の生の声が聞けて有意義でした。子どもの数が減ってきている中で、高校の先生方が環境を整えて下っていることが伝わりました。
15	進路選択をしていく中学生に向けて、参考になるお話が聞けました。
16	公立高校で不登校生徒を受け入れる大変さや先生方の努力、実情を知ることができた。
17	学校の先生方の変えを感じました。高校生でも小学生のように、きめ細やかに対応していることに、脱帽しました。
18	生徒と教師の心の距離感が大切であることが分かった。
19	学校ごとの特色を生かした成功例が知れて良かった。
20	進路選択の一助になりました。

21	県立高校の校長先生の話よりも、太田フレックスの生徒の実態や伊勢崎工業高校の不登校生徒の立ち直り、榛名高校の養護教諭の支援方法などもっと伺いたかった。
22	県立高校は身近なようでいて、説明会などに伺ったことがなかったため、学校のシステムや雰囲気をお話しいただいてとても参考になりました。私の勤務する教室からは清陵高校へ進学する生徒も多く、先生がよく目をかけて下さるようで安心いたします。実業系の学科のある高校のお話もなるほどと思うことがたくさんありました。
23	中学校時代に不登校傾向の生徒がどのような進路を選ぶとよいか分かった。公立の高校でもたくさんの取り組みがあることを知ることができた。中学1・2年生の不登校の子供を持つ保護者を対象にしたこのような説明会があると、保護者が安心して自分の子供に向き合えると感じた。
24	高校現場のお話を聞く機会もほとんどないため、今回のお話は貴重でした。
25	学校に不安感がある子どもたちも、安心して通えるような教育システムがあるのだと思った。少人数のクラスや、教師と近い関係を持てることが、子どもたちに安心感を与えているのだと思った。
26	学校関係者以外の地域の方にご紹介していただける機会がよかったと思う。
27	現場の先生方の声が聞けてよかったです。
28	各高校で、様々な工夫をしてくださっていること、そのことで生徒さんが自己肯定感や有用感を持てるようになっていることがわかり、ありがたいと思いました。
29	中学を卒業してからの様子がわかって良かったです。
30	進学指導者向けの説明会かと思われる内容で、各学校のPRのようでした。木部先生が投げかけてくださったのが救いでした。退学してしまう生徒にはどのような配慮または支えが足りなかったのか、浮き彫りにならず残念でした。もちろん学校の責任ばかりとは言いませんが、指導の「欠点」についての視点は重要だと感じます。
31	群馬県は、とても多くの「多様な学び」ができる環境が揃っているのだと感心しました。ただ、中退率の高さは自己肯定感を得ているということになるのでしょうか？選択肢は揃っているのだけれど、結局何が足りないのか、その辺りを考察してみる必要があるのではないのでしょうか。ある先生は、「入学してからこんなはずじゃなかったという生徒が多くいるから、半数が進路変更をする」という言い方をされていましたが、生徒の側に問題があるという理論で良いのでしょうか？
32	通信制高校以外の高校の先生のお話が聴けて、とてもありがたかったです。最初はどの先生方も、成功例をお話されたので、みんながそういくわけではないな、、、と思いましたが、後半から、実際のところをお話しされて、それが自分の生徒や保護者に話したいこともあったので、「思っていたのと違う」や「こんなはずじゃなかった」にならないように、慎重に一緒に考えて、進路を決めていただきたい、と強く思いました。 伊勢崎工業高校が、10人程度で作業をするようで、それならば行ける可能性がある子がいるかもしれない、と、機械系に進みたい子がいるので、オープンスクールに一緒に行ってみないか、と誘ってみようと思いました。 フレックス高校は、1コマが90分ということなど、HPではわからない情報がたくさんある、ということをお話くださったので、そのことも生徒や子供達に話そうと思います。入学しても、卒業できるわけではないこと、卒業できなかった時に、さらに自己肯定感が低下すると思いますので、進路は無理せずに、イメージを鮮明に持てるように色々と考えられるように、寄り添っていきたいです。私自身も、一度支援者として、生徒が行けそうな高校の見学に行きたい、と強く思いました。
33	中学生の時の私は、高校のことはよくわからず、とりあえず普通科という選択でした。色々な進路があり、
34	通信制の高校のことをよく知らなかったのも、とても興味深く拝聴しました。先生方と子供達との距離が近い、少人数、特色ある体験活動など、それぞれ学校の色があることが分かりました。不登校児にどのような進路先があるのか知っておくことは全教員に必要なことだと感じました。

35	大変興味深い報告でした。うまくいった生徒とうまくいかなかった生徒がいることを受け止めた上で、少しでもうまくいく生徒を増やすために、常勤教員や常勤ＳＣをもっと増やしてほしいと強く思います。生徒数が少ない学校は職員数も減る現状があり、このままでは頑張っている職員が燃え尽きます。リスタートを応援する大人をもっとたくさん配置してくれたら、もっとできることが広がり、社会貢献する若者が増え、社会にも必ず還元されると思うのですが、現状は厳しいです。できることをやっていく。自分に言い聞かせています。
36	勉強になりました。
37	高校現場の先生方のきめ細かい、個に応じた継続的な対応に、頭が下がります。
38	高校現場での支援の工夫について、それぞれの学校のお立場で、熱心に語られていました。その後の私立通信制で学ぶ高校生の生の声を聴くと、公立高校での対応の限界も見えてきた気がしました。
39	各学校の特徴はよく分かった。ただもう少しディスカッションを増やしてもよかったのでは？
40	様々な学校の話が聴けて大変良かった。その後の私立通信制の生徒たちの話が素晴らしかったので、公立高校でも生徒や保護者の話が聴けると良かったと思う。
41	私は中学校に勤務しており、高校に送り出す立場なため、その後がどのように過ごしているか気になるところでした。成功体験だけでなく、実際の高校の現場のようすを伺うことができ、大変貴重な時間となりました。また、各高校の実際のようすをお聞きし、進路指導にも役立つ情報を知ることができ大変ありがたかったです。先生方の、「進路指導は本人の意思決定での指導を」という言葉が心に残りました。今後に生かしていきたいと思います。
42	進路変更（自主退学）に至った事例の話も聞けると良かったと思います。
43	たいへん参考になりました。職場で共有いたします。
44	進学校の事例も聞きたい。
45	自己選択の大切さ 高校見学等の必要性について痛感しました。 中学校全欠の生徒たちは進学について 諦めているような部分も感じます。公立高校を含めて 不登校の受け入れについて どうしたら本人たちに情報を届けられるのか？考えさせられました
46	各高校ごとにその特色や具体的な生徒の姿を教えていただけたのが大変ありがたかったです。ミスマッチがあったときの進路選択の難しさなど、中学校段階での進路指導も考えなければと感じました。
47	他校の様子が聞けてよかったのと、特色ある高校の選択肢が広がっていることがわかり、高校進学の際に、学区を気にせず多様な考え方を尊重出来たらよいと思った。
48	高校でどんな支援をしているかがわかった。
49	特色のある高校が増えていることが、初めて分かりました。特性に合わせた進路選択の幅が広がっていると思います。もっと色々なところで、知る機会があるとよいと思いました。
50	前橋清陵高校の新井先生、榛名高校の阿部先生、太田フレックス高校の木部先生のお話は、学校の特色や取り組み、生徒の状況がよくわかり、大変勉強になりました。各校の先生方の話はよくまとまっていて大変充実しているので、進行役の先生の補足やまとめは最小限に留めていただきたいと思います。
51	小学校、中学校時代に何らかの課題があっても、何かのきっかけや目標ができると、高校生活を有意義に過ごせるようになるという例を教えていただけて良かったです。
52	各校の特徴や取り組みが分かり、大変興味深かったです。他の高等学校についても聞いてみたいと思いました。
53	学校現場を先生方の生の声が聞けました。 HPではキレイな話ばかりですが、今日は良かったです。
54	とても興味深い内容でした。義務教育に携わる身としては、卒業後の様子について、気にはかけているものの、知るすべがありません。進学後の様子を知ることができて、今後の相談者への助言のヒントとなりました。

55	多様な学びの場があることが分かった。
56	時間の関係で、質疑応答までできなかったのも、可能であれば学校現場の教職員と意見交換できたら良いと思いました。
57	各学校で様々な手立てで自己肯定感を高めようとしている苦勞を知ることができました。
58	公立高校が登校拒否をしている生徒に対し日頃どのような対策や対応をしているのか知る機会がなかったのも、今回知ることができて良かったです。通信高校の生徒の生の声を今回聞くことができ、大変勉強になったので、公立高校の生徒や卒業生も呼ぶことができれば、次回は生徒を呼んでいただき、生徒の実体験も聞いてみたいと思いました。
59	とても分かりやすかったです。それぞれの高校ならではの特徴を生かした対策、対応をとられているのですね。いずれの学校も、温かいなと感じました。
60	具体例を話していただいたことで、取り組んでいる内容がわかって良かったです。手厚く対応されていることがわかりました。もっと、取り組みを外に伝えていった方が良いと思いました。
61	高校やフレックス高校の現状がよくわかりました。
62	高校現場の実情が分かり参考になった
63	実際の高校現場での対応についてよくわかりました。規模や専門性を生かした指導をしたり、生徒に寄り添った対応をしたりしていることがわかりました。
64	自己肯定感が低い生徒が非常に多いと実感しております。成功体験が少なく、褒められる経験もないので、「どうせ」が口癖の子供たちが多いです。学校はどうしても比較してしまいがちな環境にあります。そういった環境下でもひとりひとりと向き合い、認め合えるような働きかけが重要になってくると感じました。
65	高校での事例をうかがい、多種多様な支援を必要とする生徒が増えているため、どの学校でも少人数制度で教育することができたら良いと思いました。
66	進学校も含まれるとバランスがよくなると考えます。
67	高校現場のうまくいった例を聞けてよかった。反対にうまくいかなかった例も知りたい。
68	特色ある県立高校のことを知れて良かったです。
69	県立学校でも、いろいろな学びの場があることを知ることができました。もっとアンテナを高くして、情報を集めたいと思いました。
70	高校現場で先生方が一生懸命に生徒に寄り添った対応をいただいていることに感心いたしました。
71	私学のお話は聞く機会が多かったのですが、今回は、公立がいかにきめ細やかに対応しているかがよくわかります驚きました。

Q 3 (4)

【講演】 医療の現場「自己肯定感を育む心理的効果とその手立ての一考察」

講師 みどりクリニック院長 鈴木基司氏

<感想>自由記述

1	不快体験が不安に繋がり、危険を感知し、危険を回避したり攻撃したりする行動に現れる。悪循環に陥らないように、症状が出た時に医療と連携をとれるようにしていきたい。
2	医療については、基本的に支援に当たる人は皆が知っておくべきことと感じています。そのうえで、各機関の特色を活かした支援が生きてきます。先生の講話の時間も確保していただき、ご準備いただいた内容をお聞きしたいと思います。
3	30分という短い時間内でまとめて話すことの難しさがあることを鈴木先生のご様子から理解できた。掴みにくさのある話ではあったが、資料があることにより読み返すことができ、鈴木先生が結果、何を伝えたかったのが理解できた。鈴木先生のご講演は時間を長くとった方が良いと感じた。
4	子育ての目標は、その子が生れた社会に適応していく力を育むことや、抱えた不安を他者に発信する力を身につけさせておくこと。本当にその通りだと思います。
5	自分の辛さ、不安を言葉にして伝えられること、自分で助けを求められることが大切な事だと思います。なかなか難しいとは思いますが。
6	知的障害がない軽度発達障害の子どもたちへの支援に対して、より一層理解を深めることが大切だと感じました。
7	今回は投薬に関する話も聞けたことが良かったです。
8	子どもや保護者が何に困っているのかに目を向ける必要性を感じた。
9	目立つ特性に目を向けがちですが、大人しい子/一見すると問題の無い子に対して、注意して観察する必要性を感じました。
10	処方箋や、カウンセリングによって改善される事により、少しでも自分を好きになり、自分を大切に思える様になれば良いと思う。
11	鈴木先生ワールドに浸ってお話を聞いていました。じっくりレジュメを読み込みたいと思います。
12	みどりクリニックの鈴木先生のお話がとても良かったです。次回は、もっと時間を取っていただき、さらにお話が聴きたいと思いました。
13	今後も教育と医療機関との連携の重要度が分かった。
14	医学的に根拠のあるお話が聞けて良かった。
15	鈴木先生のお話は不安感の処理についてお話をいつもしてくださいませ。 毎年この時期に聞くことで再認識させられます。
16	今回も鈴木先生のお話とても参考になりました。新年度から通うようになった不登校の生徒さんと、1学期の間はまだお互い探り探りの関係でしたが、はやく嫌なことは嫌と言ってもらえるような、安心な存在になれるように関係を積み重ねていけたらと思います。
17	子供のイライラを抑えることに目を向けてしまうが、子供の不安な気持ちを少なくする薬が効果的であるという視点を持つことができた。
18	みどりクリニックの鈴木先生のお話は昨年度も聞かせていただきましたが、語り口調やは穏やかで優しく、内容もとても勉強になりました。時間が短かったので資料についてのお話が全部は聞けなかったのが残念です。
19	具体的な例を元にお話して下さって、非常に分かりやすかった。
20	医療ができることを学び、役割分担の確認ができた。
21	脳の中で起きている現象を教えていただき、良かったです。

22	事例を通してわかりやすく説明していただけて良かったです。医療関係の方から専門的な事も聞くことができて良かったです。30分では足りませんでした…もっと話を聞きたかったです。
23	鈴木先生のお話を聞いたことは、とても貴重なことであったと思います。ただ、時間が短すぎます。鈴木先生の講演だけで良かったような気がします。
24	鈴木先生は、医師としての立場を強く出さずに、謙虚にお話しされ、お医者さんにトラウマがある子も、鈴木先生ならば大丈夫な子が多いのではないかとお話しを聞くたびに思います。セロトニンの効果など、医学的な見解のお話が、とてもためになります。
25	抱えた不安や弱みを言葉にできる環境を作りたいの思いました。
26	自分のクラスにいる子の特徴と重なる部分があり、興味深く聞かせていただきました。様々な子を見てきた先生の体験談はとても説得力があり、教員や保護者にも希望を見出してくださるなと感じました。
27	自己肯定感が大切だと改めて思いました。
28	勉強になりました。
29	医師としてのお立場から、詳しいお話を聴くことができて良かったです。
30	医療からの視点がよく理解できた。
31	不登校生徒には、学校へ来させたいあまりに、不登校になってしまう背景や心の内を知ろうとすることを蔑ろにして、登校指導ばかりに力を入れてしまっている自分に反省しました。「その子を肯定的に捉える。認めることが第一歩。」という言葉が心に残りました。生徒の行動に隠された思いや体調への影響にしっかりと目を向け、生徒と向き合っていきたいと思います。
32	もっとピントを絞った話が聞きたかった。
33	たいへん参考になりました。
34	1時間あると良い。
35	時間が足りなかった印象です。うつ 不安症に絞って 詳しくお話を伺いたかったです
36	みどりクリニックさんでの具体的な診察のイメージが持てて良かったです。不快な思いから嫌な感情を先取りしてしまい、不安へとつながっていくということは身に覚えもあり、非常に納得できました。僅かでもこうした知識を持っていることが、現場の教員にも必要だと感じました。
37	普段聞くことが出来ないクリニックの様子も知ることができてよかった。メンタルクリニックの選択を考えた時に、先生の専門やクリニック規模、予約状況や方針など、わかりやすくまとまっていると、選択しやすいと感じた。
38	医療的な観点からわかった。
39	もっとお話が聞きたかったです。
40	長年の診察の現場から得られた知識や知見、ご経験に裏打ちされた内容でした。不登校状態の子どもを診察に連れてくる親は、今の子どもを心配しているというより、「この先」「将来」に対して不安に思っている、という点が心に刺さりました。子どもの抱く不安と保護者の抱く不安との「ズレ」を知りました。
41	支援者がもたなければならない、肯定的な視点について学べました。
42	鈴木先生のお話が聞ける機会だと期待していたのですが、時間が短く残念でした。
43	医療につなげて、起立性障害と診断がつきその後、学校ではどうにも出来ないのが現状。参考になるお話を頂き、職場でも話をしてみます。
44	医療の中では実情の把握が福祉の場でよりよくできるので、機会があれば受診を勧めたい。
45	一人一人の子ども達に自己肯定感を育むことは、学校教育での一斉指導ではやはり難しいだろうと感じました。まじめで頑張る子どもでも、友人関係などどこかでつまずいたり、評価されることで自己評価が下がってしまったりします。そういった30人の子ども達を一人の担任がフォローするのはたいへん難しいことだと思います。
46	医療のプロの方から話を聞くことができて良かったです。

47	毎回、鈴木先生のお話を聞かせていただけるおかげで、はじめは難しかったけど、今ではするりと頭に入ってくるようになりました。
48	鈴木医師の、一人一人を大切にされているスタンスがよく伝わりました。
49	異なる立場からの見解を得ることができ有意義だった
50	医療現場での実際の出来事をもとにお話いただき参考になりました。症状に応じて薬を使うこともあ ると知り勉強になりました。
51	受診されてくる親と子の差を聞くことができ、本人の気持ちを蔑ろにしないよう、ステップを踏みなが ら、支援することが必要だと感じました。
52	30分では、時間が足らなかったようです。
53	鈴木先生のお話を、もう少し長く聞きたかった（1時間くらい）
54	薬のことをお聞きできてよかったです。
55	先生のお伝えしたいことがたくさんあったと思いますが、時間が短かったため、私自身はうまく吸収でき ないまま終わってしまいました。
56	専門的見地からお話しただけた。内容がとても濃いものでありがたかったです。
57	子どもたちの不安から生じる症状と医療にできることを知り、教育の場で子どもたちに何ができるかを考 えるきっかけになった。

Q 3 (5)

【意見発表】 不登校経験者が語る「私が選択した通信制高校での学校生活」

進行役：北爪喜久雄氏

(群馬県私立通信制高校連絡協議会会長 クラーク記念国際高校 前橋校校長)

発言者：群馬県私立通信制高校連絡協議会加盟校の生徒

・クラーク記念国際高校前橋校

大澤 寧々花(おおさわ ねねか)さん 女子 3年生

・第一学院高等学校高崎キャンパス

安江栞奈(やすえ かな)さん 女子 新入生2年次生

・おおぞら高校高崎キャンパス

澁田 瑠璃華(しぶた るりか)さん 女子 新入生3年次生

・わせがく高等学校前橋キャンパス

唐鎌 由(からかま ゆう)さん 男子 新入生

2025年3月卒業 現在 群馬県立農林大学校1年

<感想>自由記述

1	一人ひとりの生徒の生活が充実している様子が聞けて良かったです。今回参加された生徒は通信制での進学が上手くいった生徒だとは思いますが、小中学校では不登校だったけど、高校で自分を変える再チャンスがあることを経験した生徒の発言には頼もしさを感じました。当事者に語ってもらうことが本質を理解するのに役立ちました。参加してくれた生徒たちにありがとうと伝えたいです。不登校の問題を考える上で、素晴らしい企画だったと思います。
2	不登校体験者の生の声を聞くことができ、生徒や保護者に寄り添った支援の仕方を幅広く考えていきたいと思います。
3	ご本人が自信を持ってお話する様子を見て、恵まれた環境に出会えたことに嬉しく思いました。今後も様々な経験をされていくことと思います。いろいろな経験をしても、周りに相談しながら、自分らしく生きていただけますよう願っています。
4	自分らしくいられる環境の必要性を考えるきっかけとなりました。通信制高校への劣等イメージや転学をするハードルは、コロナ禍以降、年々下がっていると感じています。しかしまだまだ「普通」科にこだわる生徒、保護者は多く、教員もまた然りです。登壇した生徒の話の聞けば聞くほど、教員として指導上の不安を感じました。多様性の時代ですが、言葉ばかりが独り歩きして、教育者や保護者がその真の意味を理解できていないまま、理解されずに苦しむ生徒が増えているように思われたからです。 また、アドバイザーの先生のお話の中で、教育現場に人が少ないということ、1人の職員が対応する人数が多いというものがありました。現在本校には1200人以上の生徒がおり、中学時代に不登校や通級を経験した生徒も多数在籍します。しかし、カウンセラーは1人で、相談室は週2回の開室です。相談スペースは素人から見ても適切とは言えない場所と環境にあるように感じています。養護教諭は2人いますが、1学期の様々な健康診断に忙殺され、保健室が機能しません。日本とアメリカを比較して話をしましたが、日本がいかに教育という初期投資に消極的であるかを痛感しました。
5	今回の研修で、最も学べる時間となった。不登校経験者の生の声には力がある。個々に苦しい日々があり、今を迎えている様子に、乗り越えられた経験が、個々のさらに高らかな気に繋がっていることを実感した。よりよい生き方ができている喜びがにじみ出ている生徒、また卒業生の方の姿に、こちらの方が勇気をいただいたように感じた。これからも、紆余曲折ある人生を迎えることもあると思われるが、乗り越えてながら、自身の素晴らしい将来を築いていけることを、心より祈っている。

6	中学時代に不登校経験のある学生さんたちが、通信高校で今を前向きに元気に過ごされている様子を見て、良かったと思います。一方で、同じ通信制高校に通う学生さんたちにも、未だ生きづらさを抱え、困難を抱えながら過ごされている方々もたくさんいるのでは…と思います。通信制高校を選ぶ、メリットだけでなく、デメリットも含め、知れたら良かったと思います。
7	実際の生徒の声を聞くことができ、様々な学びのスタイルや、生徒自身が決定し意欲をもって学ぶことの必要性を感じた。通信制サポート校を選択しても上手くいかない事例もあると思いますので、その点についても教えていただきたい。
8	皆さんしっかり発言され、今の自分に自信を持っていただけること、素晴らしいです！辛い時を乗り越えてこれたのでしょう。
9	具合的に自己の体験を語ってくれて、貴重なお話を聞くことができました。
10	自分を認められると、これ程までに生きる力が増すのか、と感じました。
11	不登校経験者とは思えない立派な話ぶりだったのと生き生きとした様子が見られて、支援者(指導者)としても希望が湧き、子どもを信じて、力を引き出せるようにかかわっていかうと思いました。
12	不登校体験者の言葉は大変説得力があり重かった。現在の自己肯定感がはぐくまれる前の、不登校時考えていた事、親や学校の対応の良悪の例、立ち直るきっかけ、現在不登校状態にある生徒へのメッセージも聞きたかった。
13	4名の生徒たちの未来を応援しています。自身の体験を壇上でしっかりと自身の言葉で語られていて、立派だと思います。経験者の思いや、そのとき家族が本人たちにどう対応したかを知ることができてとても良かったです。ありがとうございます。
14	4人の体験談をフリートークで聞くことが出来たので、これから生徒へのアドバイスに役立てたいと思う。
15	4人の生徒さんたちが生き生きと夢を語る姿に驚きました。この方々は、成功した事例なのかなとも思いました。また、群馬県内にこんなにたくさんのサポート校があることさえ知りませんでした。また、それぞれの学校が特色を持っていることも。この春に教え子がサポート校に進学しました。通える範囲の全てのサポート校を親子で見学して決めたそうです。この夏休みに感想を聞いてみたくなりました。
16	学校説明会のような内容に終始しているように思えた。
17	不登校を経験した本人の思いや考えを聞くことができて大変参考になり、元気をもらいました。
18	中学校まで不登校だった生徒が通信制に通えていて、先の進路もしっかり考えられていて前向きに努力している姿に感心しました。みなさん本当に輝いていました。また次回もお話をぜひ聞きたいです。
19	興味深く聴かせてもらいました。みなさん、復活を遂げて素晴らしかったです！自分の環境に合う場所を見つけることが、大切だと思いました。
20	代表生徒様方に感動しました。
21	不登校における環境因子の大きさを知りました。
22	実際の話は、今困っている子たち、その保護者の方に大きな刺激になりました。焦らず、その子のペースで進めていく必要があるなど。しかし、情緒学級に在籍している生徒は、勉強にも生きにくさを感じているので、そういう子たちにもあった進路を見定めていきたいとおもいます。
23	4人の生徒さんのキラキラした姿に、明るい未来と広がる可能性を見させていただき、とても暖かい気持ちになれる講演会の締めくくりでした。自分が普段行っていることも、小学校中学校で不登校であっても、自分に合った進路を見つけて、高校では新たな気持ちでスタートを切れるようにとお手伝いしているので、今回の生徒さんたちのように堂々と壇上で話をできる姿など見るととてもうれしくなります。自分の支援している生徒さんも、こんなにキラキラした高校生になってもらえるように、と言う気持ちがより高まりました。ありがとうございました。

24	実際に不登校を経験した方の生のお話を聞くことができ大変参考になりました。ありがとうございました。
25	生徒たちが生き生きと自分の目標に向かって過ごしている姿を見て、不登校への不安が少なくなり、見守っていこうという前向きな気持ちになれた。参加してくれた生徒のみなさんに感謝をしています。
26	当事者の話を聞く機会はなかなか無いので、貴重でした。私は小学校教員なので、小学校で不登校の子達が、今回登壇された生徒さんのように、高校に通えるように、その子らしく高校生活を送れるようになるというなあと思いつながりながら聞かせていただきました。
27	経験者のリアルな声を聞くことができた。小学校でもいろいろな手立てを講じているが、不登校や教室不適応などがある。極端であるが、通信制小学校などでできれば、早期問題解決につながるのではないかと考えた。経験者の小学校・中学校での辛い体験を起さないために。
28	不登校になるきっかけは様々であるが、ちょっとしたことが引き金となって不登校になってしまうのだと思った。体験を語ってくれた4人は、不登校になっても、本人の立ち直る力や周りの支えで、今では夢を持って高校生活を送っているのが素晴らしいと思った。学校も、自分に合うシステムを見つけることが、生き生きと過ごすことに繋がるのだと思った。
29	生徒さんの経験の場として、研修会が活用されるのはよいことだと思う。
30	経験者の生の声が4つも聞けるとは、素晴らしい時間でした。4人に感謝です。
31	生徒さんたちの生の声が聞けたのが、とても良かったです。皆さん、未来を見据えて進んでいる様子が伺われ、キラキラしていました。生徒さんが納得して進路選択をできたことがよかったように感じましたので、学校現場でもそのように実現できるよう努めたいと思いました。
32	高校で頑張っている生徒さんの話を聞いて良かったです。みんなが良い方向に行くといいと思いました。自分に合った高校を選ぶ事も大切だと思いました。
33	大変素晴らしい内容でした。完全不登校の生徒でも、未来が開ける事がよくわかりました。
34	ファシリテーターの先生がとても上手に生徒たちの話を引き出ししていたので、当事者の心の声を聞くことができて参考になりました。
35	登壇した高校生たちは、本当に自分の人生を切り拓きつつあり素晴らしいと思います。発表してくれたことは本当にすごい勇気であると思います。通信制高校の学費については触れられなかったですが、学費は大きな壁となっていると思います。通信制高校を選べる子は恵まれていると思います。通信制高校を選ぶことができない子の進路がとても気になります。
36	現役の生徒が話をしてくれること、とても楽しみにしていました。それぞれの子が、今までの自分のことを目を背けずに話してくれて、その時のことを糧に、今の自分がある、と、自信を持って前を向いている姿に、応援の気持ちがわきました。
37	不登校だったとは思えない堂々とした態度で語る子供達をみて、涙が出そうでした。今関わっている子ども達もそうなれるように、今日教えて頂いた事を焦らずゆっくりやっていきたいと思いました。
38	不登校だった頃を乗り越えて、前向きに高校生活を送る生徒さんの言葉に力強さを感じました。不登校を乗り越えるためには、周りの温かな支援や繋がりが大切だと分かりました。今、周りにも不登校で悩んでいる人がいるので、そういった人に聞いてほしいお話でした。
39	生徒の皆さんが自分の言葉で語ってくれて、貴重な機会でした。ありがとうございました。
40	良かったのか、どうなのか考慮中です。
41	いつ頃から登校がむずかしくなり、どのように復活してきたのかが、よく分かった。みどりクリニックな鈴木先生が最後におっしゃっていた、学校教育の古いシステムの変更が必要だという話は、ずっと思っていたことで、同感です。ひと学級30人以下、副担任制を、小学校からお願いしたいです。

42	不登校を経験したことがある生徒さんたちが、今の私立通信制高校で自分らしさを取り戻し、自己肯定感を高め、夢に向かって頑張っている姿に感動しました。生徒さん自身の努力もありますし、支える保護者や私立通信制高校の教職員の皆様のお力がたくさんの若者を勇気づけ、元気にしているのだと感じました。公立の学校に携わるものとして、考えさせられることも多くありました。私立の学校から学ぶことも多くあると思います。様々な学びのかたちがあってよいのだと思います。これからも様々な形で情報提供をしていただいたり、連携させていただけるとありがたいと感じております。 参加して下さった高校生、卒業生に心から感謝いたします。このような企画を考えて下さった関係者の皆様にも感謝いたします。
43	サポート校の生徒の様子がよく理解できた。
44	全体的に興味深い内容だったが、特に印象に残ったのが私立通信制高校の生徒さんたちの話でした。こういった場に呼ばれるような選ばれた子たちだということを差し引いても、とても生き生きとした声で学校生活の楽しさを語ってくれていました。不登校を経験した子というマイナスイメージを払拭するような、堂々とした明るい雰囲気でした。話す内容や将来への展望にしても、全員がしっかりとしたものを持っているように感じました。ここ数年の私立通信制高校の充実ぶりは目を見張るものがあると感じています。 集団や校則などの制限が少なく、少人数の仲間や距離の近い教員と話しながら、自分のペースで勉強をするというスタイルは、現在はかなり需要があると思います。私立通信制高校という選択肢がより広く認知されれば、不登校や学校での人間関係で行き詰まっている子どもを抱える親にとっても、ずいぶんと気持ちの負担が減るのではないかと思います。経済的な負担はありますが、それを許容できる状況であれば、親も余裕をもって子どもに接することができるのではないのでしょうか。
45	まず何よりも、立派にステージで話される生徒さんたちの姿に感動し、驚きました。実際に体験した子供の立場からの思いを聞くことができ、大変勉強になりました。不登校生徒たちも不登校でいることを望んでいるのではなく、自分らしく前向きに生活することを望んでいる。教師として、もっと一人一人と向き合い、思いを聞き、その時のことだけでなく、長い目で見て、その子のためになる指導・支援をしていきたいと思いました。
46	学校での様子がもっと聞けると良かった。
47	いきいきとした生徒のみなさんがとても素晴らしかったです。
48	大いに参考になった。これを楽しみに参加した。もう少し時間が欲しかった。ファシリテーターがもう少し黒子役に徹してほしかった。生徒たちは言葉に詰まっても、上手に表現できなくても全く構わないので、もう少し生の声が聴きたかった。生徒たちにはありがとうと言いたい。
49	4人の登壇者の話に感激しました。不登校生徒 親御さん 小中学校の先生方のもっとたくさんの方々に聞いて欲しかったです。不登校生徒対応の日々に 明るい光が見えました。4人の勇気に感謝です
50	言いにくいこともあったと思いますが、各自ご自身の考えを朗々と発表されていて素晴らしかったです。中学時代の進路指導についても、お時間あればお話をうかがいたいくらいでした。
51	生き生きと話す生徒さんの様子が印象的でした。自分にあった場所で、目的を持って、楽しく生活を送ることが一番の選択だと思いました。養護教諭として、生徒の人生を豊かにする関わりができたらと改めて思いました。
52	不登校経験者でも高校で楽しく学校生活が送れていて、担任している生徒も将来そうなるといいなと思った
53	かつて不登校だった方が、高校で学ぶことを楽しんでいる姿が見ることができ、どこかできっかけがあれば・・・という希望が持てました。大勢の前で、本音を話していただいたことに感謝します。

54	勇気をもって登壇した4名の生徒さんたちの姿が感動的でした。特に、わせがく高校の唐鎌さんの話が大変すばらしかったです。不登校になった理由、不登校の頃に親にテニスに誘われたこと、通信制高校を選んだ理由、将来は一次産業で社会を支えたいという思い、大学校で研究するテーマなど、彼の話の聞いていると、彼のこれまでの人生の中で不登校は1つの通過点（ほどの小さな出来事）であったようにも感じられます。皆にとって通過点になればよいのですが、そう容易く乗り越えられるものではない今、自分には何ができるのか、とずっと考えています。
55	通信制高校に通う生徒さんの生の声が聞けたことで、未来に希望がもてました。本人の気持ち次第でいつからでも変わることができると思えました。
56	学生の生の声が聞けてたいへん有意義な研修会でした。また、通信制の学校に関する理解も深めることができ良かったです。勇気を出して登壇してくれた学生に感謝です。
57	過去の経験から今に至るまでの話が聞けて良かったです。この経験は財産となると思います。今、もがいている生徒もいずれ明るい兆しがあると信じています。
58	とても勉強になりました。
59	今回の研修会で、最も興味があった場面です。子どもたちの生の声は、本当に貴重でした。もっともっとたっぷり時間をとって欲しかったです。こういう研修会を、義務教育でもやって欲しいです。
60	スクーリングが多様な形態で実施できる事が分かった。
61	実際に不登校を経験した生徒さん達の話の聞くと、小中学校における義務教育制度は既に破綻しているのではないかと感じざるを得ません。一人一人の子どもに寄り添う教育を実現するためには、通信制高校のような柔軟さ、もっと自由に話ができる関係性、人的配置が必要だと思いました。
62	4人の生徒さんが立派に発表していて感激しました。小中でつまずいたお子さんも、まだまだ立ち直って活躍する機会があると改めて感じました。
63	不登校経験者が何故不登校になったのか、どのようにして乗り越えたかなど生徒達の生の声を聞くことができて良かったです。
64	こんなに立派に前を向いて生きている姿が眩しくて、嬉しくて、涙が出ました。応援しています。
65	直接、経験者の声がきけてよかったです。
66	これからの教育は、生徒自身が選択して学校や教科などを学んでいくものになるはずで。そういった意味では、通信制の高等学校は先端をいって、生徒が選択し納得して学んでいる様子がよく伝わりました。また、実際にステキな学生に育っているみなさんに会えたことが何よりでした。
67	生徒さんの成長を知ることができ、不登校都会につながった
68	不登校という経験を経て、現在の高校で頑張っている生徒さんたちの話が聞けてよかったです。生徒さん達は、大勢の前にも関わらず、堂々と自分のことや学校のことを話されていて素晴らしいかったです。現在、お子さん不登校で悩んでいる保護者子ども達に聞いてもらえれば、未来への希望や勇気がもてるのではないかと思います。
69	不登校経験者の生の声を聞くことができ、非常に勉強になりました。私に対応している子は、不登校傾向があったり、転学の意味があるような子供たちです。日々の対応で、正解がわからず苦戦していますが、寄り添い続けることの大切さを改めて学ぶことができました。また、通信制といっても5日間通うような選択もできることを知ることができました。ありがとうございました。
70	通信制に通っている子ども達の生の声を聞くことができ、自分に合った環境で学ぶことができると安心感を取り戻し、飛躍的に成長できるのだということを感じとりました。
71	もっと高校生と卒業生の生の声が聞きたかった。2時間くらい欲しかった。または、前半に少し話して、慣れてから、休憩以降の後半に入れば、もっと緊張がほぐれたかも知れません。
72	現在、将来に不安のある不登校児童・生徒、保護者に、彼らの声を聞いてもらいたい。

73	かなりよかったです。関わっている生徒や保護者に、聞かれたら、私立通信制高校の制度について情報提供したいと思います。
74	たくさんの大人を前に、立派に自分の言葉で話をしてくれた4名のみなさんにエールを送りたいと思います。ありがとうございました。
75	・とてもよかったです。「当事者の声」こそ、現在の当事者にとっても、支援者にとっても必要なことだと思います。しかし、「当事者の声」はなかなか聞くことができません。本日設定していただいたことは、とても有効だと思います。・上記の(1)～(4)をなくして、(5)のみ（発言生徒を増やす、同じ内容で発言生徒を変えて2セット行う等）でもよいと思います。
76	生徒の皆さんがご自分の体験を語られていたことにまずは感謝します。今はその時のことを乗り越えて、新たな目標に向かっていくことに感動しました。
77	よく大勢の前で体験を語ってくれたなと思いました。今回の研修で1番迫力がありました。
78	経験者の高校生の経験や今の思いを知る貴重な時間となった。今回、来てくれた子どもたちは、その子にあった環境が得られ、たくさんの支援者の中で今があることが分かった。反対に、それが得られていない、今も不安の中にいる子どもたちに対して私たちが何ができるか考えていかなくてはと思った。

4 新たな支援ガイドについて貴方の意見を寄せてください。

本日の研修会を参考にして、今年度新たな支援ガイド「学校にいきにくさを感じている子どもの高校進学を支援する（仮称）」の編集を計画しています。

困っている本人や保護者、支援に携わっている皆さんにとって、どんな情報があると役立つと思いますか。貴方の意見を寄せてください。編集作業の参考にさせていただきます。＜自由記述＞

1	それぞれの学校の大まかな特徴や違い、どのような支援を受けられるのか等の情報が分かると中学校の先生にとってありがたいのではないのでしょうか。
2	通信制高校やサポート校の、よさと卒業資格を得るための難しい点を具体的に教えてほしい。
3	保護者の対応です。生徒本人へのアプローチは常にフォーカスされている課題だと思いますが、家庭環境が原因で学校に行きにくさを感じている子どももいるようです。ヤングケアラーのことについて情報が欲しいです。
4	すでに記載があるが、居場所情報、相談先情報があることが良いと思われる。また、相談先情報については24時間体制の連絡先があると、さらに良いように感じる。
5	相談先、機関の詳細 事例の掲載
6	本人が何に困難さを抱えているのか、学校へ行きにくさを感じている原因はなんなのか、相談に行ける場所（学校関係以外に医療や福祉）の情報が、中学生が理解できるレベルで、身近な場所にあるとよいと思います。例えば、冊子が本人の手元にあれば、役に立つのではないかと思います。 高校進学も含め、進路情報は沢山あるとよいと思っています。ただ、どんな道にも両面があり、メリット・デメリットがありますから、それが本人に伝わるようなシステムがあると良いと思います。
7	進路変更後すぐに次の学校に所属せず、一定期間在宅で過ごす場合のサポート機関についての情報や体験談を紹介していただきたい。
8	高校からこぼれてしまった子の居場所、支援機関などの具体的な所も知りたいです。
9	今回お話ししていただいたような、不登校を体験した生徒さんの体験談、アドバイスなどがあると、変化を起こすヒントに繋がるのではないかと思います。
10	サポート校への進学に対して、そこを卒業してどういう進路指導をしてくれるのか、どういう進路選択があるのか、というところで躊躇する場合があるので、具体的な情報があると良いと思う。
11	今年度の秋に高崎市に児童相談所が開所するので、次版ではそちらの記載もお願いしたいです。
12	不登校経験者のなんとかなるから大丈夫だよというメッセージは励みになると思います。 別の視点で、学校の先生の昔ながらの指導観を変えることも大切だと思います。 不登校経験者の話を教員に聞かせたいです。
13	中学校の欠席日数が高校受験にどのように影響するかを具体的に知りたい。そもそも不登校でも受験出来るのか、等。高校に入学する生徒の不登校経験の割合。
14	不登校になった原因は、それが本人にも分からない事も多く、分かっているけど、話せなかったりする。原因から解決できれば良い。
15	今回参加の4名が、自分の学校とこんなに違うんだと話していましたね。どんな部分が違うのかをそのガイドに載せてはいかがでしょうか。
16	繋がれる場所。相談できる場所。居場所になる場所。
17	私の娘も学校に行くのが嫌で大変でした。本人はもちろんのこと、親の対応がとても難しかったです。なので、そのことを経験されて、うまくいった保護者の話がとても聴きたいです！不登校経験者の生徒の話を聞きながら、保護者はどのように、対応していたのだろう・・・と強く思いました。
18	上記に係わるサポート校も含めた学校一覧があると、支援する際に、有効活用できる。

19	支援ガイドですが、構成は色々な方が携わっていて特に意見はないのですが、予算を増やし、小中高の保護者全てに配布されることを願います。内容は大変素晴らしいので、この冊子を活用されることで、救われる保護者や本人が増えると思います。
20	当事者であった生徒さんの声がきくと響くのではないかと思います。
21	今回の公立高校での取り組みを紹介してほしい。また、支援ガイドを小学校高学年や中学校1・2年生の不登校の家庭に届くようにしてほしい。中学3年生になってからでは遅い。
22	該当生徒の進路先にはどんなところがあり、それぞれの特徴やメリット、デメリットについて知りたいです。
23	学校に行きにくさを感じている子どもへの、適切な学校の支援方法について
24	自学しないと卒業はできない、単位修得という目的がないとお互い苦勞する）反面、帰属のため（高校生）という社会的な利点もあるかと思っています。
25	行動分析という視点からの対応というのは、きっとメジャーなやり方ではないのでしょうか。
26	本日の研修会で、高校によって特色があり、違いも大きいように感じたので、その辺りを具体的に知る手立てがわかるとありがたいと思います。
27	今回は最高例がほとんどでしたが、高校入学してから退学した生徒の支援をどのようにアプローチするか、どのような機関に相談するのが良いのかなど。聞けるといいと思いました。
28	進学の手前の支援が必要だと思っています。学校に行きにくさを感じている子は、高校をすぐに決められません。中学校の先生方を含めて、学校に行けない「状態」を理解していただきたいと思っています。
29	スクーリングという文部科学省が定めている基準は本当にうんざりするものと受け止めましたが、通信制の学校ごとに工夫をしていることを知りました。スクーリングについての情報、それから学費についての情報は貴重なものであると思います。経済的な支援についても触れていただけると良いかと思っています。
30	・教室の具体的な様子 ・通信制高校ならば、スクーリングの具体的な内容 ・小中学をほとんど学校に行かなくても入学できた子がいる、や、卒業できた子がいる、という実績
31	各校の特色をまとめた情報があると、ありがたいです。
32	高校は各校システムが違う点があります。 ・直接説明を受ける方法（連絡先）・入試関連の流れ（時期） などがあると検討しやすいと思います。
33	社会に出るまでに、どのような力が身についているとよいか。例えば、頼る力など。
34	県内すべての高校（公立・私立・通信制・サポート校）のリストや連絡先、簡単な情報などがあると良いと思います。加えて、特別支援学校の情報もあると良いと思います。
35	なぜ不登校になるのか、高校を中途退学してしまうのか？根本的な原因や高校選択の視点を考える研修会を企画して欲しい。そして多くの保護者に聞いて欲しい。そんな研修会が企画されることを期待します。
36	高校に限らず様々な進路の在り方の中から、自由に選ぶことが当たり前である、それが本来の姿であるということを強調しても良いのではないかと思います。それが悩んでいる生徒や保護者にとっての心の負担軽減につながるような気がします。
37	不登校生徒の保護者が抱える悩みについて、不登校経験者の子供が回答し、子供の立場からの思いを知ることができるといいなと思います。保護者の方々もかなり悩んでいるので。
38	不登校児童生徒を抱えていた保護者が、自らの経験を話してくれるような話。
39	本日の高校の先生方からあったお話の内容があるとよいと思いました。
40	文字が多くボリュームがある。どこに相談したら良いかチャート図があるとわかりやすい。

41	不登校生徒が受験可能な高校とそれぞれの特色 見学等の高校との連絡方法
42	フロチャートのような形で、子ども(保護者・教員など)がどんな状態の時にどんな連絡を取れば良いか、どんな支援ができるかといったことをまとめてもらえたら見やすいような気がします。
43	学校と病院関係以外の相談先を知れたらいいと思います。学校には関わりたくない、病院はハードルが高くなって、抱えてしまう子が多いと感じているからです。できたら、気軽に相談できるようなものが理想。LINE相談や、夜間も受付など。
44	高校進学後に進路変更を行う場合の具体的な情報。通信制高校の種類。相談窓口。群馬県外から群馬県内への転学。
45	実際に進学している生徒さんの声
46	多様な学びの場の周知、特に通信制高校の多様なスクーリング形態についても周知していただけると助かります。
47	保護者が高校生と面談する(高崎地域)取り組みは、実際に困り感を抱えている保護者にとっては大変有益だと思いました。学校に行きにくさを感じている子どもの一番身近な支援者は、保護者です。第二の支援者として学校や地域があるのではないのでしょうか。子どもを中心に、保護者・学校・地域(関係機関)で子どもを支えていく環境作りが大切だと感じます。
48	既に不登校になっている子ども達の受け皿となって悩みを聞き、進む道を一緒に考えてくれる場所(施設や窓口など)の紹介、実際に不登校を経験して自立した人の体験談、といった情報があると役立つのではないのでしょうか。
49	今回の通信制高校の生徒さんたちの発表のように、当事者のお話があると良いと思いました。
50	?相談窓口(施設)の一覧 ?生徒本人が気軽に相談できる窓口の電話番号 ?不登校経験者でも通いやすい高校進学先一覧 ?不登校経験を乗り越え、活躍している社会人の体験談の一覧
51	通信制高校と一口に言っても、公立なのか、私立なのか。私立でもそこがサポート校なのか、単独の通信制高校なのか…違いが明確に理解出来ている生徒、保護者は少ないと思います。それぞれのメリット、デメリットなどが、各校に問い合わせなどしなくてもある程度は理解出来る様な資料が求められている様に思います。
52	我が子はASDグレーで、学習も偏りがありますが、何より手先の不器用さが際立っていて人一倍苦労しました。それなのに、看護師を目指したいと言って大学に進学し、どんなに努力しても実習がこなせず、大学2年でクビになりました。本人の自己理解と実際の能力に差があるのは、側で見ても分かりましたので、いずれこうなるだろうなぁと思っていましたが、あえて本人の決めた進学先を否定せず、壁にぶち当たってペシャンコになりました。そうやってひとつひとつ乗り越えた先に、ようやく自己理解があるのかなぁと思っています。
53	具体的にどこの施設や機関等が、誰に対して、何歳まで支援などをしてくれるか? 高等学校や特別支援学校の学区について、また全県1区ならばそのことについての情報 通うことのできる全ての学校などの一覧
54	親子関係でもめるケースをよく見る。家庭内が安定していることが子どもにとって大事だと思う。家庭平和のは保護者の心理的安定が欠かせない。そのため不安な保護者にどう声掛けをするか、どういうスタンスを取ることが望ましいか、などの情報があると、回り回って子どもの成長に役立つと思う。
55	最後に上原先生がおっしゃっていたように、発表してくれた生徒さんが通う通信制スクールのような環境があれば、今現在不登校で苦しんでいる当事者たちが救われるのではないかと思います。今は、通っている学校が対応し、復帰を目指すことになっていて学校も当事者も改善が見られないのが現状だと思います。学校でも家庭でもない、第3の居場所の確保とそこに行くことのハードルを下げるができるといいなと感じました。
56	相談窓口の情報、進学した生徒の体験記など

57	学校現場の意見としてですが（小学校勤務）、不登校児童や保護者に対しての対応が、実際は手探り状態で、これでいいのかと迷うことが多い。一生懸命にやればやるほど、結果が出なかった場合に、無力感を感じるし、疲れてしまって離れたいと思うこともある。
58	中学卒業後の進学先の多様性を伝えたい。また、その特色も。
59	経験者の声が出ているとよいと思います。また、どんな支援をしているか具体的な情報があるとよいと思います。
60	今回の内容にもありましたが、不登校体験者のエピソードを大いに交えていただけるとより実感がもてるものになると思います。
61	冊子には、まず最初に相談するところ、その後どうすべきか教えてくれるところのみを載せれば良いと思う。細かいことはネットに載せれば良いと思う。色々書いてあるとわかりづらい。

5 次回の研修会への期待

次回のテーマは「働きにくさを感じている若者の就労支援（仮称）」を予定しています。

どんな内容を期待しますか。＜自由記述＞

1	働く意欲を身に付けるには、どのような支援・指導方法が有効なのか、成功例、失敗例を含めて、教えていただきたい。
2	就労先をどのように見つけていくのか、就労に向けてどんな準備をしておくといいのか。
3	今回初めて参加させていただきました。高校の先生方からの生の声などが聞けて良かったです。
4	就労支援が実際に行われている機関情報、またどのような活動をしているのか等を知りたい。
5	普通高校に在籍している知的障害の生徒の進路指導について（手帳を持たない（境界域のため取得できない、または、取得を拒否している）生徒も含めて）。中学校段階での進路指導の必要性。
6	高等学校からの福祉的な就労の具体例があったら知りたいです。
7	一旦就職はしたものの、不適応で退職となってしまった場合の就労支援について
8	どんなことで苦労しているか、どんなサポートがあるのか知りたいです。
9	本題から外れますが、不登校生徒が中学校を卒業してコンビニなどでアルバイトに就いても、卒業生の進路調査では就職ではなく在家になります。頑張っても、就職扱いにならないのは可哀想な気がします。
10	発達障害や発達特性のある若者に対する就労支援が知りたい。学生時代は問題なく生活できていたが、いざ働くとなった時に、なかなか一歩が踏み出せないケースに頭を抱えている。
11	本日の研修会の様に、実際の体験談で通信制高校からの大学進学や、就職したことなどを聞くことができたら良いと思う。
12	若者の年齢層をいくつかに分けて、お話を聞きたいです。例えば、中学卒、高校卒、大学卒、専門学校卒のようにです。
13	経験者、体験者の話
14	娘は、自己肯定感が低く、摂食障害にもなり、大学には行けているけれども、就職できるか、とても心配です。なので、①うまく就職できた話②就職できず、精神障害者手帳をとり、施設などで働く話③どうにもならず生活保護で暮らせるのか、その場合、どうすればいいのか知りたいです。よろしくお願いいたします。
15	安心して就労体験ができる体験活動及び就労体験講話の現状
16	就労に関しては移行支援の情報は沢山ありますが、使える障害者年金など、生活支援面などの話も聞いてみたいです。いつも素晴らしい研修会の企画運営に感謝しております。
17	やはり、仕事を辞めてしまったりしたが、支援を受けたり、自分の心持が変わったりして、納得いく仕事につけた当事者の方の声が聞けたらよいと思います。
18	次回の研修会も期待しています。次回も実施について学校現場にご連絡をお願いします。
19	困ったときに、どんな場所に相談に行くとよいかなど、具体的な話を聞きたい。また、働きにくさを感じている若者がうまく適応している様子などを聞きたい。
20	働きにくさの具体的な内容とそれに対する支援について知りたいです。
21	できるだけ具体的な実践例
22	就労支援の機関にはどのようなところがあるかは、なんとなく知っていても、具体的な支援などが、聞けるといいです。
23	なぜ働きにくさを感じているのか、当事者の声を聞いてください。
24	働きにくさを感じない（感じられない）けれど、働けない若者は？企業の側の努力は？就労支援とはいうものの、自立のできない就労の問題は？親亡き後の支援は？

25	発達特性をお持ちの方、お持ちでない方、のそれぞれの本人の話を聴いてみたいです。 働いても辞めることになったときに、何がしんどかったのか、などが聴きたいですが、 逆に、発達特性や心の不安定さがあっても雇用する会社の人の話も聴きたいです。 どんなことに注意しているか、など。両方の立場の方々のお話を同じ場で話してもらうのは、 働きにくさを感じている若者には厳しいと思うので、それぞれの回を設けていただけるとありがたいです。 高校に進まずに働くことを選んだ不登校の子がいたら、その話もぜひ聴きたいです。
26	企業の採用担当者の話を聞いてみたいです。
27	仕事が続けられるために必要なこと（仕事の選び方、準備など）や、働きにくさを感じている若者が仕事を継続できている体験談を聞いてみたいです。
28	継続的な支援体制、見守り体制。
29	ハローワークの取り組みや様々な福祉制度なども含め、多くの情報提供を期待します。
30	実際の就労した若者の声や、就労現場の方の声があるとありがたいです。
31	高等学校→福祉就労した事例も聞きたい。
32	働く迄に必要なこと 働くスタートラインに立つまでの支援等
33	中学校で進学せず就職しようとする生徒などの具体例や、その進路選択をすることのメリットやデメリットについて何かしらのお話があったら興味深く感じられます。
34	手帳を使って就労、手帳を使って就労したがやめた、一般就労にした、一般就労にしたがやめた、などそれぞれの方の選択と現状を知りたい。また、就労支援に携わる方のお話や、受け入れた企業さんのお話もぜひ聞きたい。
35	上司としてどう関わればよいか
36	何に対して働きにくさを感じているのか、当事者の方々の声が聞きたいです。
37	当事者の体験談と可能な限りの背景情報。
38	これから就職を予定している高校生(中学生)が何を知りたいと思っているか調査すること、また就労への希望と不安などの話が聞けると良いのではと思います。また、就労してみて感じた働きにくさについて、実際の就労者から話が聞けると有益ではないかと思います。
39	実際に就労支援を受け、今現在活躍されている方の意見をお聞きできると良いと思います。
40	働きにくさを感じた経験があり、それを乗り越えて活躍している若者を数名呼んでいただき、体験談を聞いてみたいと思いました。
41	今回の高校生のように、実際に苦労した人の、それを支えた方の、生の声やお話が聞けると嬉しいです。
42	働きにくさを感じている方への対応をすることが、会社等にとって前進することであるという事例
43	就労移行支援のしくみ 入るための条件など
44	高校求人は非常によい内容で送られてきます。高校から就職する生徒は学校からの支えもあり良い条件で就職することができそうですが、発達支援をしてきた生徒や個別の支援計画をたてていた生徒の場合、どこまでの情報を先方にお伝えしたらよいのか、また伝えるにあたり注意する点などがありましたら教えてください。
45	若者サポートステーションでの活動について
46	さまざまな働くまでのルートをいろいろ知りたい。
47	「当事者の声」を多く設定できるとよいかと思います。
48	実体験者のエピソードを聞かせていただけるとありがたいです。
49	転職支援だけでなく、仕事を続けたまま、悩み相談を受けてくれるところが知りたいです。
50	サポート体制について。今回のように当事者の思いが聞けると良いと思った。
51	参加してみたいです。